

兵庫の林業

2022. 1 No. 299



もくじ

新春を迎えて・・・・・・・・・・・・・・・・	1
知事新春メッセージ・・・・・・・・・・	2
秋の叙勲・県林業賞・森づくり表彰・3〜4 △普及だより▽	4
出前授業「淡路島で林業？」・・・・	5
地域特産物への取り組み 〜オニグルミシロップ採取と直まき造林〜	6
△技術シリーズ▽ ウリハダカエデの苗木規格別初期成長・7〜8 そまびと訪問⑤・・・・・・・・・・	9
県立森林大学校第6期生の募集について・	9
森林ボランティア活動紹介・・・・・・・・	10
全国木材産業振興大会・・・・・・・・	10
県産広葉樹苗木生産者育成研修・・・・	11
兵庫の巨樹・巨木(40) (裏表紙)	
題字・・・・・・・・ 兵庫県知事 齊藤元彦氏	

表紙の写真

主伐・再造林の推進(朝来市山東町)
兵庫県では、「植林、保育、伐採、利用」の林業サイクルが継続する資源循環型林業の実現に向けて、主伐後の再造林に係る森林所有者の負担軽減施策推進や主伐・再造林低コスト普及モデルの検討を行い、低コストかつ安定的な原木生産と主伐後の確実な再造林の実現を目指しています。



新春を迎えて

一般社団法人 兵庫県林業会議会長
兵庫県森林組合連合会代表理事副会長

石川憲幸

新年明けましておめでとうございます。皆様には、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

コロナ禍にあって二年近くになり、ようやく感染状況が落ち着いてきました。ところが今度はオミクロン株が出現し、世界中が戦々恐々としています。一日でも早くその鎮静化と穏やかな日常に戻ることを祈るばかりです。

さて、林業を取り巻く情勢ですが、昨年三月頃から長らく低迷していた丸太価格が急騰し、近頃は少し値を戻したものの、柱材など木材製品は、依然高騰している状況です。

この現象は、皆様もご存じのとおり「ウッドショック」と呼ばれ、アメリカの住宅ブームや中国経済の活性化など米中の木材事情のありで、我が国の木材需給がひっ迫したためと言われています。

川上の林業関係者にとっては、数十年ぶりの僥倖ではありますが、川中・川下の製材や流

通などへの影響は大きく、特に需要側の建築事業者にとっては、資材の高騰に加え、品不足でも厳しい状況と聞いております。

川上の林業の現場とて、丸太価格が急騰したからといって、人材確保や生産システム面で増産への即応は難しいとも聞きます。

このように、海外での出来事によって、大きく翻弄される林業・木材産業ではありますが持続可能な資源循環型林業を実現するためウッドショックを契機に、様々な取り組みが展開され、林業・木材産業の活路を拓けることを期待します。

近頃、世界各地で大規模な山火事や洪水など異常気象による災害に見舞われています。

我が国でも梅雨や台風時に線状降水帯が出現し、短時間強雨や長時間降雨による洪水や山地災害の発生などが問題になっています。

このような気候変動は地球温暖化が大きく関わっているとされ大気中の温室効果ガスの削減に国際的な取組が進められていることは

マスコミ等でも報じられているとおりです。

わが国では、二〇五〇年に温室効果ガスの排出をゼロにする目標が掲げられました。我々が目標とする資源循環型林業の実現により、若い林をどんどん成長させ、伐った木は、余すことなく使い「伐って、使って、植える」というサイクルをフル回転させ森林吸収量の確保に寄与したいものです。

最後になりましたが、コロナ禍が依然生活を脅かし続け、未だ先が見通せない状況ではありますが、先人たちが築いてきた兵庫の素晴らしい森林を次代に引き継げるようできる限りの努力をしていきたいと考えております。

今年は暦の上では、「壬寅(みずのえとら)」とトラの中でも優しい家族思いのトラとされています。どうか穏やかで安定した年になりますよう、皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



令和四年新春メッセージ

躍動する兵庫、 コロナを乗り越え未来へ

兵庫県知事

齋藤元彦

新年あけましておめでとうございます。昨年も新型コロナウイルスが私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしましたが、県民・事業者・医療関係者の皆様のご協力により、第五波を乗り越えることができました。

しかし、感染再拡大のリスクは続きます。マスク着用、手洗い、「密」の回避など基本的な感染対策の徹底を引き続きお願いします。県としても、保健所や医療提供体制の強化、三回目のワクチン接種の推進など、対策に万全を期します。

同時に、「ワクチン・検査パッケージ」等も活用しながら、飲食、旅行、イベントなど、社会経済活動との両立も図っていきます。

さらに、今年はポストコロナ時代を見据え

た取組を本格的に検討・推進する年とします。

その一つは、時代の潮流であるデジタル化やグリーン化の加速。デジタル技術を、働き方、教育、医療・介護、地場産業や農業など様々な分野で取り入れるとともに、再生可能エネルギーの導入拡大や水素の活用などの地球温暖化対策に力を入れます。

また、少子高齢・人口減少社会への対応や、頻発化・激甚化する自然災害への備え、交流と日常生活を支える道路ネットワークの整備など、すべての県民の皆様が安心して、育ち、働き、暮らし続けられる、だれも取り残さない兵庫づくりを進めます。

大きなポテンシャルを持つベイエリアの活性化にも本腰を入れます。二〇二五年大阪・関西万博は、兵庫に人・モノ・投資を呼び込

む大きなチャンスです。更なる発展の起爆剤とすべく、ベイエリアプロジェクトの起動、万博の来場者を県内各地へ誘うフィールドパビリオンの具体化など、新たなチャレンジをしていきます。

もとより、こうした取組は行政だけでできるものではありません。民間との連携をこれまで以上に広げていきます。また、私自身が県内各地で地域の皆さんと対話を重ね、地域の課題やニーズを新たな施策に繋げていく県民ボトムアップ型県政を推進します。

「躍動する兵庫」の実現に向け、飛躍の一年としていく決意です。皆さんのご理解、ご支援をお願いします。

令和三年 秋の叙勲等受章者

旭日小綬章受章

谷口 幸三氏

兵庫県木材業協同組合連合会会長



主なご功績

昭和47年に木材を中心とした建材や住宅資材の販売を行う会社に入社、昭和54年には代表取締役社長となり、同業者等からの厚い信頼のもとにリーダーとして地域木材業界を牽引してこられました。平成14年に宍粟郡木材業協同組合（現 宍粟木材業協同組合）の理事長に就任された後は、組合員の経営規模拡大や組合の活性化に尽力されました。平成19年に組合を合法木材供給事業者認定団体にされ、組合員へ合法木材供給の重要性を普及し、トレーサビリティが求められる公共建築物への県産木材の供給拡大を図られました。平成29年からは兵庫県木材業協同組合連合会会長を務め、新建材CLTを使った兵庫県林業会館の視察を全国から受け入れ、地域材を利用した公共施設の木造化の普及に尽力されています。

黄綬褒章受章

畠山 弘氏

兵庫県きのこ生産振興会会長



主なご功績

昭和45年に原木しいたけ栽培を始め、南但きのこ生産振興会会長、兵庫県きのこ生産振興会会長を歴任され、県内しいたけ生産者の経営基盤強化や後継者育成に大きく貢献されています。原木しいたけの栽培では、ハウス栽培や自ら考案した自動散水装置の導入などを通して、独自の生産システムを確立し、大幅な労働軽減や生産量増加に繋がられました。

また、「地域林業の活性化には、しいたけの生産拡大が重要」との信念のもと、PRを兼ねた地域イベントでの直接販売や、ホテルや料理店への個別販売ルートの販路の拡大に努めてこられました。さらに、自らの経験をもとに地域の生産者に対して、技術面から経営面に至るまで指導を行い、生産力の向上に積極的に取り組まれています。

令和三年度 兵庫県林業賞受賞者

兵庫県林務課

多可郡多可町加美区

橋詰 雅博氏

主なご功績

「林業労働災害防止の普及啓発と後継者の育成に貢献」

橋詰雅博氏は、加美町森林組合において40年にわたり地域の森林林業の発展に尽くされ、退職後は長年の現場経験を活かした安全管理指導専門家として、数多くの事業体の労働安全や安全衛生指導の講師を務め、林業労働災害防止に大きく貢献されました。また、緑の雇用事業の安全指導員や森のインストラクターとして活動し、後継者の育成にも貢献されました。



姫路市夢前町山之内

藤原 幸雄氏

主なご功績

「優れた素材生産技術の普及と後継者の育成に貢献」

藤原幸雄氏は、昭和53年に父の代に築いた素材生産業を受け継ぎ、地元を中心に広く中播磨地域の山林作業に従事されてきました。架線集材技術及び林業全般の豊富な知識と高い伐木技術を持ち、兵庫県指導林家として、地域林業を牽引されるとともに、教員資格を活かし、森林環境教育や若手林業従事者の育成など、後継者の育成に貢献されました。



令和三年度 兵庫県林業賞受賞者

兵庫県林務課

豊岡市日高町八代

小林 和嗣氏

主なご功績

「優れた原木しいたけ栽培技術の確立と後継者の育成に貢献」

小林和嗣氏は、昭和44年から原木しいたけ栽培に従事し、地域のきのこ生産者団体の長を長年務められ、この間県内外の品評会で多数受賞されました。また、付加価値の高いしいたけ栽培研究に会員とともに熱心に取り組むなど、優れた原木しいたけの生産に貢献されました。さらに、地域の女性グループと特産品の開発にも取り組み、地域の活性化にも貢献されました。



令和3年度ふれあいの森づくり 国土緑化推進機構会長賞

兵庫県ドングリ千年の森をつくる会

主なご功績

「今できること、私たちにできること、そして未来につながることを」とを理念とし、カシ・シイ類の「どんぐりの森」を再生することを目的に発足されました。

主に明石公園で集めたどんぐりから、苗木を育て、その苗木を宍粟市はじめ県下各地で植樹・育樹し、どんぐりの森の再生を進められ、幅広い年代の多くの都市住民や地元住民が活動を通じて交流されています。



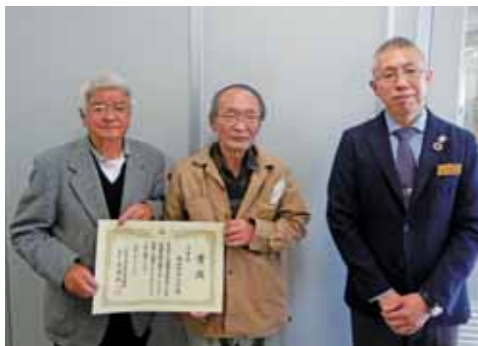
令和3年度全国育樹活動コンクール 国土緑化推進機構理事長賞

林田町里山会

主なご功績

姫路市林田町口佐見の里山林を活動拠点として、森林整備（不用木の除去、倒木・枯損木の整理、遊歩道の整備、案内板・道標等設置）を実施されてきました。

里山林内ではシイタケ栽培を行っており、隣接する温泉施設の姫路市はやしだ交流センター「ゆたりん」の農林産物直売所にて直売を行うなど、施設利用者をはじめ多くの人々に親しまれています。他にも将来を担う小・中学生を対象にした野外学習・木工教室、健康ハイキング等バラエティーに富んだ活動を地域をあげて取り組んでおられ、これらの功績が高く評価されました。



(公社)兵庫県緑化推進協会 令和3年度ひよこ森づくり活動賞 ほくらうとことや

森の世話人倶楽部

主なご功績

神戸市東灘区内の保久良魚屋エリアの登山道にて、「人をつなぐ・地域をつなぐ・次世代につなげる」の活動理念のもとに、「岡本校回廊プロジェクト」を推進されてきました（六甲山系グリーンベルト整備事業地内）。

推進にあたっては、倶楽部構成団体間や地域住民との連携・交流を図り、多種多様な担い手による活動を心がけられています。また、植樹会等の一般参加イベントを通じて、住民にとって身近な都市山六甲山の素晴らしさ、大切さを幅広い世代にPRする普及啓発活動にも精力的に取り組んでこられ、これらの功績が高く評価されました。



出前授業「淡路島で林業？」

淡路県民局 洲本農林水産振興事務所

一 はじめに

「林業の出前授業をお願いできませんか・・・。」洲本市内の小学五年生の担任の先生からの依頼でした。

私は定年近い新米普及員ですが、これからの日本を担う子供たちへの教育が非常に大切であると考えていましたので、思案することなく引き受けることにしました。

二 淡路島でなぜ林業なの？

私は淡路島に住んで34年目になります。これまで島民の山への関心をほとんど感じることはありませんでした。農業や水産業が盛んな土地柄ゆえに林業への関心が低い地域だと納得していましたが、地域の森林整備を進めるためには森林環境教育が必要です。淡路島の人工林率は9%と低いですが、森林環境も含めた林業（森林整備）についての出前授業を積極的に実施していく必要があると考えました。

三 出前授業の目的

出前授業では、児童一人一人が森林の働きや森林を守り育てること（林業）の大切さを学び、家族で共有することで、社会全体で森林整備に参加できる土台づくりを進めることを目的としました。

市有林での間伐など現地見学も検討しましたが、コロナ禍である



出前授業の内容（森林の役わり）

ため、校舎共有スペースで教科書の内容に則した講義形式（一コマ45分）となりました。

四 効果的な出前授業の内容

出前授業の内容は教科書の内容に沿った構成としました。世界や日本、洲本市の森林面積の割合、大切に守り育てられている大浜海岸のクロマツ林など身近な森林に關係する内容をクイズ形式にすることで、児童の集中力を切らさず、終始和やかな雰囲気です。児童からの質問に対する答え合わせも即答せず一緒に考えながら回答するよ

う工夫しました。

【主な授業内容】

- 森林の面積
- 天然林と人工林の違い
- 人工林の手入れ
- 森林の役わり
- 森林の資源利用

五 児童の反応

児童81人に出前授業を実施した結果、質問コーナー終了後にも複数の児童から追加の質問があり、森林に興味を示してくれたことを実感できました。未来の担い手づくりの種が蒔けたと考えています。

六 今後の取組み

地球温暖化で森林のもつ役割が注目されて久しいですが、森林に携わる林学職員（普及員）として森林環境教育の果たす役割の重要性を特に感じています。

林業が盛んでない地域でも森林整備が必要です。地域社会全体で森林整備を進めていくうえで、今後も引き続き、出前授業の実施に取組みが必要だと考えています。（上野茂樹）



出前授業の風景（洲本第三小学校）

地域特産物への取り組み 〜オニグルミシロップ採取と直まき造林〜

（近畿ブロック林業グループ発表から）

1 はじめに

村岡林業研究グループは、会員の所有山林の見学会を継続的にやっているほか、朝倉さんしょの接ぎ木研修会などサンショウの栽培にも取り組んできました。令和2年度からは、樹液シロップの採取に取り組み、近畿ブロック林業グループコンクールで発表しましたので報告します。

2 シカの食害に強い森づくり研修会の開催

令和2年9月30日、シカの食害



シカの食害に強い森づくり研修会

に強い森づくり研修会として、クロモジ、ウリハダカエデ等特用樹についての研修会を森林林業技術センター尾崎専技を講師に実施しました。会員15名のほか、香美町地域おこし協力隊や自伐型林業グループ但馬やまもり隊のメンバー5名も参加しました。

研修会では、ウリハダカエデやクロモジの樹木特性や、神河町で行われているウリハダカエデの樹液シロップづくりと特産物化などについて学びました。

3 オニグルミの樹液シロップづくり

研修会の参加者はウリハダカエデのシロップに強い関心を示しましたが、村岡区内には太いウリハダカエデがあまりなく、樹液の採取は難しいとあきらめかけていました。

しかし、樹液シロップはオニグルミからも採取できることがわかり、オニグルミであれば、村岡区内に大径木が少なくなく、地域おこし協力隊でもある会員の谷野さ



樹液の採取状況

んを中心に、令和3年1月、樹液採取に取り組みました。

結果、3本のオニグルミから1月20日から3月8日までに128リットルの樹液を採取することができました。

そして、この樹液を100分の1にまで煮詰めて13リットルぐらいのシロップを得ることが出来ました。グループのメンバーでウリハダカエデのシロップとオニグルミのシロップの味比べをしてみましたところ、どちらも甘さは同じぐらいですが、ウリハダカエデのシロップはあっさりしていてクセがなかったのに対して、オニグルミのシロップは少しえぐみを感じるものの味は深く自然な甘さを感じられました。今後、地域の特産品として販売を目指したいとのことでした。

また、オニグルミの材の活用をめぐし地域の木工作家の方にお願いで、オニグルミ材からカップやスプーンを作ってもらいました。



試作したスプーンやカップ

次世代のため、直まき造林によるオニグルミの森づくりにも取り組んでいます。草刈り機で地拵えを行い、一つの植え穴に2個つつ、計50株のクルミを蒔きました。シカの多い地域ですので、食害に注意して生育を見守っていきます。

4 これからの村岡林研

村岡林研もメンバーの高齢化や活動のマンネリ化などでグループ活動が低迷していましたが、今回、地域おこし協力隊の若いメンバーが加入し、オニグルミという新しい地域資源の存在や価値を再発見することが出来ました。村岡林業研究グループはしばらくはオニグルミをテーマに活動していきます。（但馬県民局 豊岡農林水産振興事務所）

1 はじめに

兵庫県は、広範囲でニホンシカ（以下、シカという）の生息密度が高く、食害による下層植生の衰退や消失、主伐後の更新阻害が問題となっています。一方で、そのような環境でも、シカにほぼ食べられない、あるいはしぶとく生き残る植物もあり、それらは不嗜好性植物と呼ばれています。

当センターでは、2017年から主伐後の確実な更新を目指して、不嗜好性植物の活用に向けた試験研究を進めています。その一つとして、植栽適期の拡大が期待されるコンテナ苗の生産手法の確立に取り組んできました。これまでに、県内林業種苗生産者の協力も得て、不嗜好性植物3種（ウリハダカエデ、オオバアサガラ、シロガモ）のコンテナ苗生産手法を実証しました。これにより、県内での活用が進むことが期待されます。

2 材料と方法

今回の試験では、不嗜好性植物のひとつであるウリハダカエデ *Aceruliferne* を用いました。ウリハダカエデは、ムクロジ科カエデ属の高木性落葉広葉樹であり、本州から九州に広く分布し、県内でもほぼ全域で見られます。

2021年3月に宍粟市内の2つの試験地（千種、山崎）の防護柵内に、苗齢や苗種、容量、苗高が異なるウリハダカエデを1試験地あたり計10本（11規格×10本）植栽しました。

植栽時は苗高のみを測定し、植栽3ヶ月後と7ヶ月後には、苗高

一方で、不嗜好性植物コンテナ苗の植栽後の成長やどの苗木規格が好ましいのかは、評価が不十分です。そこで現在、不嗜好性植物における苗木規格の検証を進めています。

に加えて地際径も測定しました。

3 結果と考察

今回は植栽した11規格のうち、苗齢が1年生、苗高が60cmと同一で、苗種や容量が異なる3規格を比較した結果を紹介します。この3規格は、それぞれ苗種、容量が、①コンテナ苗、150cc（以下、C150という）、②コンテナ苗、300cc（以下、C300という）、③ポット苗、φ10・5cm（約730cc）（以下、Pという）のものでした（図1）。

植栽3ヶ月後の枯死率は、いずれの試験地、規格においても、0〜10%でした。枯死率は7ヶ月後

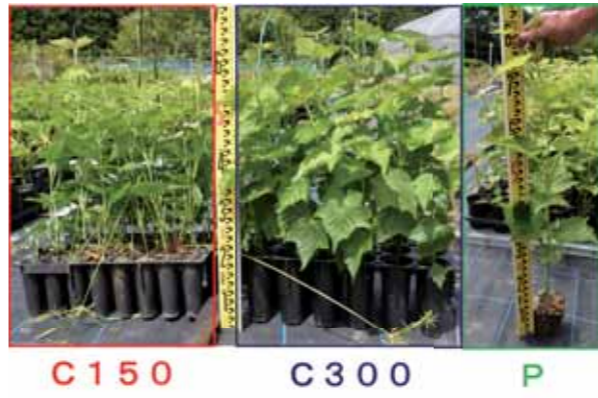


図1 3規格の代表的な形状

でも変化がなかったことから、これらの枯死は植栽直後の活着不良によるものと考えられます。

植栽7ヶ月後の苗高（伸長成長）は、千種試験地では、C150が植栽時からほぼ変化がなかったものの、Pでは平均で120cmに達しました（図2ア）。多重比較をした結果、PとC150、C300の間で有意な差がみられました。一方で、山崎試験地では、3規格とも平均で100cm前後に達しましたが、規格間で有意な差はみられませんでした（図2イ）。

また、植栽3〜7か月の地際径の肥大成長は、千種試験地では、C150、C300が平均3mmだったものの、Pでは平均で8mmに達しました（図2ウ）。多重比較をした結果、苗高と同様、PとC150、C300の間で有意な差がみられました。一方で山崎試験地では、3規格とも平均3mmであり、規格間で有意な差はみられませんでした（図2エ）。今回の調査期間（1年）では、ウリハダカエデの根は根鉢のサイズ（＝容量）を大きく超えて成長していないと推測されます。千種試験地での3規格における成長の

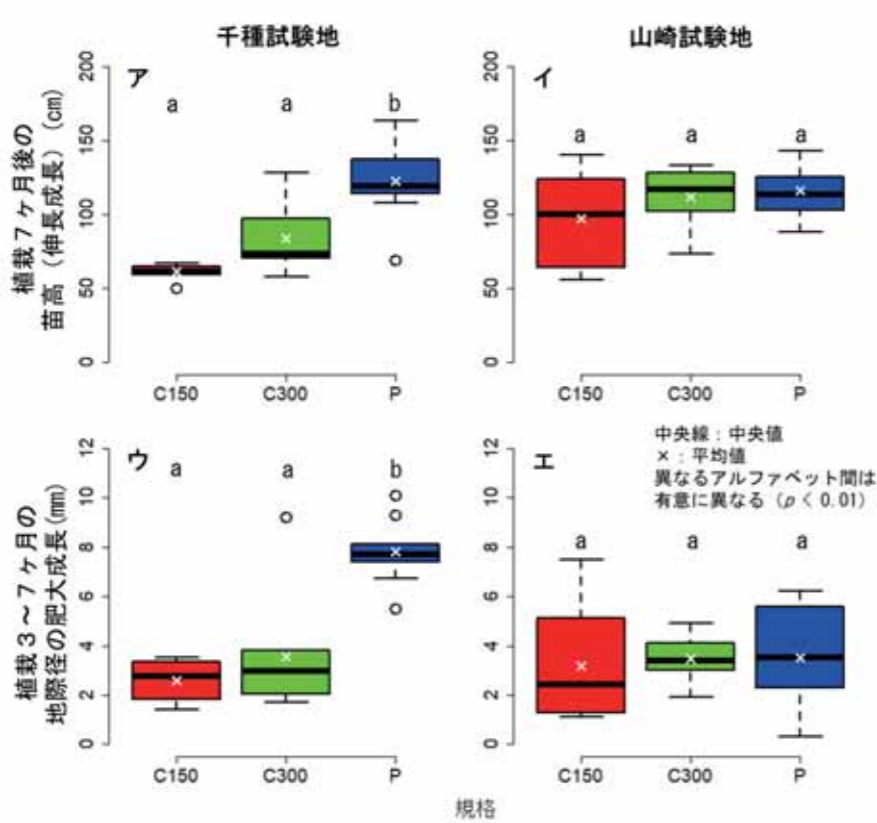


図2 規格ごとの苗高、肥大成長

大小関係から、ウリハダカエデ苗木の初期成長は、容量による制限を受けたと考えられます。この制限は物理的なものであるため、山崎試験地でも同様の制限を受けたはずですが、山崎試験地では千種試験地のような3規格間での大小関係はみられません。これは、山崎試験地のPが他の要因により成長抑制されたためではない

かと考えています。そこで、土壤条件を比較したところ、山崎試験地の含水率は8%であり、千種試験地の37%に比べ、低い傾向にありました。このことから、山崎試験地のPでは容器内に成長可能な空間が残されているものの、乾燥により成長が阻害された可能性が考えられます。

4 まとめと今後の取り組み

今回、①ウリハダカエデは植栽環境（試験地）により初期成長量や成長の傾向が異なること、②初期成長の傾向は、容量による影響を受けるものの、周囲の環境条件の影響も無視できないことが分かりました。

今後も引き続き、今回の試験地で調査を行い、2年目以降も含めた成長特性の把握を進め、不嗜好性植物のさらなる活用につなげていきます。

なお、ウリハダカエデもシカなどの食害を受けにくいわけではありませんが（図3）。シカの生息密度が極めて高い地域においては、不嗜好性植物といっても防護柵や単木防除資材といった防除が必要となります。



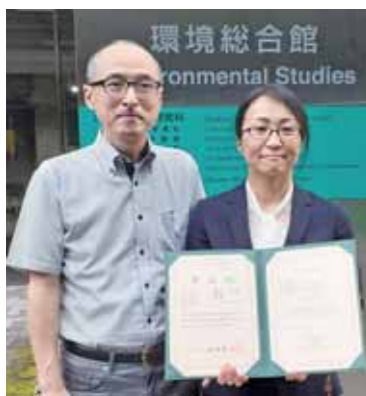
図3 食害を受けたウリハダカエデ

森林林業技術センター
藤堂 上席研究員 名古屋
大学から博士号を授与

森林林業技術センターの藤堂 景上席研究員は、令和3年9月27日、名古屋大学より博士（理学）の称号を授与されました。論文題目は、「樹木の倒伏抵抗に寄与する根系の構造に関する研究」です。

本研究は、樹木の根系構造の違いが、倒れにくさ（倒伏抵抗）にどのように影響するのか、また根系構造の異なる樹種の間で倒れにくさの差がどのように現われるのかを明らかにしました。

これらの知見によって、間伐などの森林施策が水平根の広がりを促進し、減災に寄与することを科学的に説明できるため、森林の適正管理を後押しする価値の高い研究成果と言えます。



指導教官の平野 恭弘 准教授（左）と

今回は、兵庫県指導林家で、やはりま森林組合で作業班長として活躍されている松井孝之さんをご紹介します。

松井さんは、元々林業とは無縁の介護士として働かれていましたが、地元の姫路市安富町で素材生産業者として活躍されていたお父様の影響で、35歳から林業に携わっています。

林業に携わることとなった動機を伺ったところ、「子供の頃から周囲の素材生産業者の方々にかわいがられ、歴代の素材生産業者の方々が大切にしてくられた技術はもちろん、先人が大変な思いで育ててきた山を次の代に引き継いでいかなければならないと思った。」と語られました。そんな松井さんが、「山に良い事を



したい。」と言う思いから、人一倍のこだわりと熱い情熱を注いでいるのが、大橋式作業道をベースとし、丸太組工と路盤工（敷砂利）に工夫を施した「壊れにくい作業道づくり」で、「所有者に喜んでもらい、車で気軽に山に入ってもらいたい」と願っておられます。

職場の後輩の指導にも熱心で、任された現場を自分の山と思ひ、自分ならどうしてもらいたいかを考えて整備するよう指導されているそうです。

「自分は山が好き。現在の仕事は天職だと思っている。そういう風に思える仕事を見つけれられて幸せだし、後輩にも幸せと思える仕事を見つけてもらいたい。」と語られた松井さんを心強く感じました。



次代のリーダーとして、今後の益々のご活躍を祈念いたします。（森林林業技術センター 山下毅）

「森林ボランティア活動

ほくろくくくや森の世話人倶楽部

代表世話役 前田 勝典

平成7年の阪神・淡路大震災を契機に、国・県・関係市で、土砂災害に強い緑豊かな都市環境と景観などを作ろうと「六甲山系グリーンベルト整備事業」が始まり、その一端を担う森の世話人として現在約50の企業・市民団体が活動しています。

そのうちの神戸市東灘区で活動する13団体が集まって、「人をつなぐ・地域につなぐ・次世代につなげる」を活動理念として、平成26年に「ほくろくくくや森の世話人倶楽部」という集合体組織が発足しました。東灘区内の保久良神社（ほくらじんじや）魚屋道（とやみち）エリアの六甲背山の登山道沿いにヤマザクラを植えて、育てる活動を行っています。

倶楽部の活動エリアには先人が植えたソメイヨシノの桜並木が2筋ありますが、寿命の近い老木が多い状況です。その補植も兼ねた夢のある



ヤマザクラ植樹会の様子

「岡本桜回廊づくりプロジェクト」を目標として掲げ、岡本の六甲背山の登山道をぐるっと、日本古来のサクラで、根も深く、寿命も長いヤマザクラでつなごうという大きな計画を推進中です。我々エリア団体間の連携が、地域社会や地域住民との連携活動として広がり、神戸らしい国際色豊かなで、世代を超えた森林ボランティア活動となり、将来の岡本桜回廊が地域に密着した憩いの場、いわゆる「ふるさとのランドマーク」となれば幸いです。毎年1月末には「ヤマザクラ一斉植樹会」、そして4月初めには「岡本桜回廊を巡るお花見ハイク」をとともにオープンイベントとして開催し、地域住民との交流を深め、「六甲山系グリーンベルト整備事業」の認知度アップ並びに都市山六甲山への関心を深めてもらう様になっています。



春の岡本桜回廊（電車から見えます）

兵庫県立森林大学校 第6期生の募集について

専修学校 兵庫県立森林大学校では、令和4年4月入学の第6期生を募集しています。今期の入学試験は、今回が最終です。ご注意ください。

入学試験の区分は、次の3種類です。

①一般
②事業体推薦【林業事業体に既に就業又は、就業予定の方】

③自己推薦【学習活動以外の経験や森林林業への熱い想いなどを持っている方】

1 募集定員 若干名（全試験日程の合計20名）

2 出願期間 令和4年2月16日（水）～3月9日（水）

3 試験日 令和4年3月15日（火）

受験資格や出願書類などの詳細については、募集要項をご確認ください。

募集要項は、大学校で配付するほか、兵庫県ホームページからもダウンロードできます。（出願書類の様式を含みます。）



問合せ・願書提出先
兵庫県立森林大学校
〒671-4142 宍粟市一宮町能倉772-1
TEL：0790-72-2700

学校見学は随時、受け付けています。森林を守り育てる知識や技術に興味のある方、「森林大学校ってどんな学校?」と関心をお持ちの方、皆様のお越しをお待ちしております。なお、学校見学される際は、事前にご連絡いただくと幸いです。

また、大学校の情報は兵庫県ホームページ以外に、Facebook・YouTubeにも掲載しています。左のQRコードからアクセスしてください。

第55回全国木材産業振興大会 において兵庫県から3名表彰

第55回全国木材産業振興大会（全国木材組合連合会・全国木材協同組合連合会主催）が、全国木材協同組合連合会の創立60周年を記念し、「『つくる責任』・『つかう責任』―木材利用からアプローチするSDGs」をスローガンに令和3年10月14日（木）、北海道立道民活動センター（かるで27）（札幌市）で全国から約300人の木材関係者が参加し開催されました。

大会では、都市部などでの木材利用の積極的な拡大、山元に利益を還元できる体制の構築、合法伐採木材、JAS製品等品質・性能の確かな木材供給や人材の育成確保などに取り組むことを決議。その後、旭川市旭山動物園の坂東元園長による記念講演「『伝えるのは命 繋ぐのは命』―今は未来のために」が行われました。

続いて、木材産業功労者の表彰が行われ、兵庫県からは小林進氏に林野庁長官感謝状が、川本雅文氏、山本定夫氏の2名に全国木材組合連合会会長賞が贈られました。

小林進氏は、県下の木材業者の若手の会である兵庫県木材青年ク

ラブ・会長、神戸木材業協同組合・理事長、兵庫県木材業協同組合連合会・副会長、兵庫県木材利用推進協議会・会長などを歴任し、合法性木材対策の推進や県産木材の利用推進等に貢献するとともに生業では従来の木材販売に加え、CADシステムを導入し、取引先の工務店のニーズを重視したきめ細かな木材販売を展開していることなどが評価されたものです。

川本雅文氏は、小林氏と同様県下の木材業者の若手の会である兵庫県木材青年クラブ・会長、明石市木材業組合・理事長、神戸木材業協同組合・理事、兵庫県木材業協同組合連合会・理事などを歴任し、地域木材産業の振興に寄与するとともに地域の子育て支援グループ等に対し、木に親しんでもらうワークショップ等を開催するなどの普及啓発活動が評価されたものです。

山本定夫氏は、兵庫県木材業協同組合連合会・理事、兵庫県素材生産組合・組合長などを歴任し、木材産業の振興、特に林業の近代化に積極的に取り組んでいることなどが評価されたものです。

最後に、次期開催県の福島県の代表者が挨拶を行い、閉会となりました。

県産広葉樹苗木生産者育成研修で、広葉樹苗木生産の担い手を育成

兵庫県林業種苗協同組合

1 はじめに

兵庫県では、多様で健全な森林のもと、公益的機能の発揮と森林資源の循環利用の実現を目指しています。

また、市町では、森林経営管理法に基づき、森林環境譲与税を活用した様々な取組みが行われており、人工林を針広混交林や広葉樹林へ誘導する森林整備への取り組みが始まっています。

このため、県では新しい苗木生産技術を活用して、その地域にあった優良な広葉樹苗木を養成する「県産広葉樹苗木生産者」の育成を図るため、県林業種苗協同組合が、県から委託を受けて、広葉樹苗木生産者の育成研修を実施しましたので、その概要を報告します。

なお、この研修会は、来年度以降も継続して実施していく予定です。



2 実施内容

専門的な育苗技術を身に付けていただく専門コースのほかに、県産広葉樹苗木生産に関心を持っていただくため、1日だけの公開講座も併せて開催しました。

なお、研修の講師には、森林林業技術センターの연구원・林業専門技術員のほか、苗木生産に関わる県林業種苗協同組合の理事長など役員が務めました。

(1) 公開講座 (受講者: 33人)

開催: 令和3年10月13日
会場: 森林林業技術センター 講堂ほか

公開講座では、当組合の日下部理事長が講師となって、「広葉樹コンテナ苗木の生産・管理」について育苗方法を示しながら講義を行いました。

そのほか、「広葉樹苗木生産の現状と課題」や「広葉樹苗木生産における留意事項」、「シカ不嗜好

性広葉樹の特性と活用」、「広葉樹の樹種特性」、「広葉樹の利活用」についても学んでいただきました。



公開講座「広葉樹コンテナ苗木の生産・管理」(森林林業技術センター)

(2) 専門コース (受講者: 11人)

10月28日に、朝来市山東町にある県の緑化センターで、「広葉樹種子の管理」をテーマに座学と実習を行いました。あわせて、少花粉ヒノキやひょうご元気松等の採種園の見学も行いました。

また、具体的な育苗方法を習得するため、11月11・12・18・19日には、苗木生産者の苗圃を会場にして、生産施設の見学と広葉樹苗木生産管理の実習を行いました。

受講生は、初めて触れるコンテ



ウリハダカエデの幼苗の移植作業実習を行う受講生 (左: 淡路会場、右: 養父会場)

ナ培地(ココピート)に6cm程度の小さなウリハダカエデの幼苗を移植する作業をテキパキとこなして時間までに完成させました。

参加者からは、「特に広葉樹は、地域の生態や特性にあった苗による森づくりが大切であると分かった」、「研修会は分かりやすくとても有意義であった」と好評を得ました。

(専務理事 岩村 裕)

エムシー緑化の 林業用薬剤

ススキ ササ地に

松枯防止樹幹注入剤

フレック® 粒剤10

マツガード®

発売元 正和商事株式会社

大阪市中央区道修町1丁目3番4号 〒541-0045
TEL 06 (6203) 4541 FAX 06 (6203) 4347

堤名板・林道名板と 森林土木事業の各種標識類の製作・販売



株式会社 林土連 研究社

代表取締役 岡田 恒夫

本社 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3永田町ビル6階
TEL03-3580-0907 FAX03-3504-1687
川口支店 〒332-0002 埼玉県川口市弥平3-2-24
TEL048-222-7211 FAX048-222-1914

土・木・緑・そして人
とりもどそう 人にやさしい環境

株式会社
グリーン興産

〒671-4141
兵庫県宍粟市一宮町東河内1003
TEL 0790 (72) 1553 FAX 0790 (72) 2327



— 営業品目 —
森林部門 …… 素材生産・森林整備・危険木伐採
土木部門 …… 公共土木・一般土木工事
緑化部門 …… 公共緑化工事・一般造園工事
建築部門 …… 新築・リフォーム・エクステリア工事
E-mail: info@greenkousan.co.jp
URL: http://www.greenkousan.co.jp

あなたの町の森づくり・木材利用・木育をサポートします。
ひょうご森づくりサポートセンター

森林環境譲与税や森林経営管理法に関すること、県産材や地域産材の利活用に関することなど、何でもお気軽にご相談下さい。

■神戸市中央区北長狭通 5-5-18 ひょうご森づくりサポートセンター

森林整備: ☎ 078-381-5425 (兵庫県森林組合連合会内)
木材利用等: ☎ 078-371-0607 (兵庫県木材業協同組合連合会内)
URL: www.hyogomori.jp/sc



JCE 国土防災技術株式会社
 URL=https://www.jce.co.jp/

《調査/コンサルタント業務》
 △地質調査業、建設コンサルタント、測量業、環境省指定調査機関
 《建設工事》
 △特定建設業：とび・土工工事、土工工事、さく井工事
 △一般建設業：電気通信工事、造園工事

神戸支店：〒651-0083 神戸市中央区浜辺通2丁目1-30三宮国際ビル
 TEL (078) 221-2213(代) FAX (078) 221-2611
 但馬事業所：〒667-0043 養父市八鹿町高柳字岸の下137-4
 TEL (079) 662-7108 FAX (079) 662-7496

土と水と緑の技術で社会に貢献します。
 JAPAN CONSERVATION ENGINEERS & CO., LTD.

災害のない安全で安心な社会

●治山、林道、造林事業の推進
 ●山地防災・土砂災害対策計画

一般社団法人 兵庫県治山林道協会
 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18
 TEL: 078-371-0210 FAX: 078-371-6632

HP 兵庫県治山林道協会



“治山・林道測量” は経験と実績のある
 株式会社 石原測量コンサルタント

国土交通省登録第24891号
 県知事許可(般-27)第461481号

本社 兵庫県宍粟市山崎町 船元250-1
 Tel (0790) 63-1377
 Fax (0790) 63-1398
 営業所 兵庫県姫路市夢前町筋野1078-3
 Tel (079) 336-1418



木材でつくる 美しい景観、住みよい街

木材は、持続可能な人と環境にやさしい資材です。生活の一部に木を取り入れるとともに、都市部の木造・木質化を図ることで、環境に配慮しながら安全かつ美しい景観を作り出し、住みよい街づくりを推進します。

都市木造で美しい景観を
 外構部に木材を
 木材を安全に使用するために



Husqvarna
 ■550XP/XPG-Mark II
 NEW

AutoTune

■排気量：50.1cm³
 ■出力：2.8KW
 ■質量：5.3/5.5kg(XPG)

本当の価値が分かる方へ!
 安全と作業効率を追求し続けるハスクバーナは、プロが認めるチェーンソーの最高峰です。革新的な技術を融合し、これまで以上の加速とトルクで他に類のない鋸断能力を発揮します。新登場550XP-Mark II、ぜひお試しください。

愛林興業株式会社
 本社 姫路市飾磨区恵美酒294-3 TEL (079) 234-8181(番代)
 神崎店 神崎郡神河町吉富1409-2 TEL (0790) 32-0570番
 但馬店 養父市上野1357 TEL (079) 664-2101番




緑の募金へのご協力をお願いいたします

いつも緑の募金にご協力いただき、ありがとうございます。緑の募金は、森林ボランティア活動への支援や、子どもたちの環境学習などに活用しています。ご協力いただける場合は、次の方法でお願いいたします。

ご寄附の方法
 ●郵便振込 (手数料協会負担)
 専用の払込取扱票をお送りしますので、兵庫県緑化推進協会に直接お問い合わせください。
 ●銀行振込 (手数料必要)
 口座：三井住友銀行 兵庫県庁出張所
 普通 3198438 公益社団法人 兵庫県緑化推進協会

公益社団法人 兵庫県緑化推進協会
 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号
 TEL 078-341-4070 FAX 078-341-4071
 HP https://hyogo-green.net/

兵庫県緑化推進協会 検索



編集後記

新年あけましておめでとうございませう。皆様健康やかに年始を迎えられたことと存じます。ただ、コロナ変異株が欧米のように猛威をふるい第六波を引き起こすのか、ずいぶんと気懸かりです。

さて、本誌も今回で第二十九回を迎え、昭和三十二年に県林業改良普及協会が創刊号を発行して以来、六十四年が経過します。

次号は三〇〇回記念号として、紙面が許されるならば「兵庫の林業」の歩みを少し振り返ってみたいと考えています。

また、これを契機に誌面のリニューアルをし、snsの時代ではありませんが、兵庫県林業の広報誌として少しでも読みやすくて親しんでいただけるものにしていきたいと思います。

同時に、巻末を飾る「兵庫の巨樹・巨木」シリーズも今回で最終回とさせていただきます。十年間執筆いただきました三人の樹木医の皆様には大変お世話になりました。ご意見ご提案が検討中です。是非事務局までご一報願います。

今年もコロナに負けず、素晴らしい年になりますようお祈りいたします。

(林業会議 菅原健)

緑を育み水をつくる水源林造成事業

分取林方式により、水源林造成事業を進めています。対象地は無立木地など、公的機能の低下した水源かん養保安林です。

国立研究開発法人森林研究・整備機構
 森林整備センター近畿北陸整備局

神戸水源林整備事務所 TEL (078) 362-5800
 FAX (078) 362-5802

兵庫県水源林造林協議会 TEL (078) 351-3341
 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号
 (兵庫県林業会館内)



兵庫の巨樹・巨木 (40)

最終回

このシリーズを続けて10年が経過する。今回を区切りとして、最終回とさせていただく。題して「県下の巨木と人」。これまでに紹介した個体も含まれるが、県下の巨樹・巨木を人との関わり合いを念頭に写真でお届けする。堪能していただきたい。

④3 淡路市妙勝寺のクスノキ

【幹周750cm県指定天然記念物】

子供達が競って大樹に登る。それを大人達が静かに見守る。いつまでも続いてほしい光景だ。



④4 氷ノ山の天然スギ

(ホードースギ)

【幹周525cm県指定天然記念物】

県下最大



④5 朝来市糸井の大カツラ

【株周190cm国指定天然記念物】

県下最大



詳細はNo.2をご覧ください。

④6 明石公園のラクウショウ

【幹周305cm県郷土記念物】



④7 但馬・福富のアカメヤナギ

【幹周460cm県指定天然記念物】



④8 養父市樽見の大桜

【幹周595cm国指定天然記念物】

エドヒガン



④9 但馬・三原のヤマザクラ

【幹周525cm】

県下最大



最後の④8④9のサクラはこのシリーズ第(1)号で紹介したものであり、④9のサクラは第(1)号No.260号の表紙を飾ったサクラでもある。最後までこれできめくくらせていただくことにした。

尚、県下の巨樹・巨木の詳細は本シリーズの著者の一人でもある橋本光政著作『ひょうごの巨樹・巨木百選』、更に『兵庫の樹木誌』を参照していただきたい。

樹木医 橋本光政
樹木医 宮田和男
樹木医 塩見晋一